

2026年3月6日

島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会  
会長 上定 昭仁 様

日本ジオパーク委員会  
委員長 中田 節也



### 第56回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2026年1月30日に行われた第56回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

#### 【総評】

本ジオパークでは、この4年間に新たに策定された計画の下で、多様な地形・地質の保全と活用を通じた様々な活動がボトムアップで推進されてきた。神話や古代史以外の新たな切り口の開発が進んだほか、地域住民の活動との連携がさらに拡大した。課題となっている来待石の石材利用については、伝統文化の保全という側面からも検討が進められており、今後のより良いあり方の模索に向けて対話が続けられていることを確認できた。

一方で、地域におけるジオパークの可視性は依然として課題であり、来訪者の導線についても工夫が求められる。このほか、海域エリアの明快な設定や地球科学専門員の常時配置等も解決が必要である。今後の課題解決とさらなる発展のために、日本ジオパークネットワークの活動への主体的参画を求めたい。

#### 【優れている点】

- ・松江市、出雲市、島根大学の三者をコアとした事務局が中心となり、互いに連携の取れた運営が行われている。
- ・地域の活動がボトムアップ形式で進められ、新たな担い手も出てきている。事務局やガイド団体が地域に上手く入り込んでいるほか、過疎地におけるコミュニティの維持等の地域課題にジオパークを活かす動きがみられる。「四十二浦巡り」の再興も特筆すべき進展である。
- ・ガイド団体の動きは非常に活発である。海洋環境保全のイベント実施や企業との連携、大根島での溶岩トンネルの保全と活用、ガイド養成講座の運営など、組織として自立した動きを見せている。
- ・斐伊川および出雲平野の地形とたたら製鉄の関係など、自然と人の営みのつながりがストーリー化され、教育プログラム等に活かされている。
- ・地質サイトの保全計画が策定され、それに基づいたモニタリング活動が実施されている。
- ・ビジターセンター等の拠点施設におけるジオパークの展示が拡充された。
- ・19の団体・企業等とパートナーシップ協定を締結し、連携した活動を展開している。

## 【今後の課題・改善すべき点】

### I できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

#### 1. サイト関連の用語と分類方法の再考

「ジオヘリテイジ」等の用語やサイトの分類については、他地域の関係者とも積極的に意見交換を図って整理し直すとともに、IUGSの「ユネスコ世界ジオパーク申請における地質遺産の国際的な重要性に関する評価ガイドライン」に沿って整備を進めてほしい。

#### 2. 海域のエリア設定

大社湾側は汀線を境界とすることを第54回日本ジオパーク委員会で承認したが、人間活動と密接な関係を示す離岸堤などが含まれないので、海域のエリア設定についてはさらに議論を重ねてほしい。

### II 中長期的に解決すべき事項

#### 3. 可視性の向上および来訪者の視点に立った導線の確保

駅や主要道路沿いなどに、可視性を高めるために必要な看板を設置するようさらに努めてほしい。拠点施設については、ジオパークの施設であることがひと目でわかるような工夫を求めたい。また、拠点施設のウェブサイトにはロゴマークやバナー等の掲載を進める必要がある。

#### 4. 拠点施設における来待石加工品の販売

拠点施設「モニュメント・ミュージアム来待ストーン」において、伝統的な文脈に基づかない来待石加工品が販売されている。その販売のあり方に関しては、環境への配慮やIUGS Heritage Stoneなどの国際的な取り組みとの整合性について検討を進めながら、引き続き事業者との対話を続け、考え方を整理してほしい。

#### 5. ネットワークの活用とネットワークへの貢献

サイトの分類や海域のエリア設定、来待石加工品の販売等の課題については、他地域の関係者と広く対話しながら、解決あるいは改善するために、日本ジオパークネットワークに積極的に参画し、ワーキンググループを活用してほしい。加えて、継続的にネットワーク活動を展開できる人材の長期的な育成にも期待したい。

#### 6. 地球科学の専門員の常時配置

事務局内に1名以上の地球科学専門員を常時配置してほしい。

#### 7. 地域を特徴づける要素を起点とするストーリー展開

地質や神話等の切り口だけでなく、シジミを含む宍道湖七珍、石州瓦、築地松、抹茶、和菓子など、来訪者が最初に目にするものから気づくジオストーリーを展開してほしい。

#### 8. ラムサール条約湿地や日本遺産等との連携

地域内にある他の認定・登録の枠組みとの連携を進めて、相乗効果を生み出してほしい。大山隠岐国立公園や島根県立の関連施設、日本遺産「日が沈む聖地出雲」などともさらなる連携を期待したい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上